

# 私学ぐんま

23号  
2018



第96回全国高等学校サッカー選手権大会優勝 前橋育英高校

## 目次

● 理事長ご挨拶..... 2	● 私学教育～私の思い～..... 4～5
群馬県私学振興会理事長 森本 純生	● でーた いま..... 6
● TOPICS..... 2	● 私の薦めるこの一冊..... 7
私学振興講演会	● 表彰受賞者..... 8
海外研修	● コラム..... 8
● 特色ある私学教育..... 3	● 編集後記..... 8

# 理事長ご挨拶



理事長 **森本 純生**

群馬県私学振興会では、本年度も皆様のご理解とご協力により、退職手当資金給付事業、各種融資事業のほか、8月には今年度第1回の私学振興講演会を開催するなど、円滑に事業を進めることができ、心から感謝を申し上げます。

また、今年度の海外研修は、飽田哲也 共愛学園中学校・高等学校長を団長とする10名により、イタリア、スイスの2ヶ国を訪問いたしました。今年も各学種から参加をいただき、交流を深めながら、幼稚園から、中高、大学、専門学校、さらに文化施設まで幅広く視察を行う、中身の濃い内容となりました。グローバル化が進む教育を担う教職員の研修の場として、是非役立てていただきたいと思っております。

私学振興会では、今後とも、私立学校の振興、発展に寄与できるよう取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

## TOPICS

### 私学振興講演会を開催しました



8月23日に、ホテルラシーネ新前橋において、今年度第1回の私学振興講演会を開催しました。

内容は、曾田社会保険労務士事務所の曾田 究所長による「私立学校における時間外労働等をめぐる諸問題」で、102名が参加しました。

時間外労働についての基本的な法制度のほか、労働基準監督署による是正勧告や指導票の具体例の説明、また、私立学校における変形労働時間制の導入例や割増賃金の試算例など、幅広くお話をいただき、大変参考になりました。

### 2018年度 私学海外研修報告

団長 共愛学園中学・高等学校 校長 **飽田 哲也**



10月14日より21日までの8日間の日程で、イタリア、スイスのEU(ヨーロッパ連合)2カ国の歴史・文化と教育事情を視察して参りました。

イタリア・ミラノでは、幼稚園、幼小中高の一貫校、芸術学校、大学の4校を通して歴史と伝統に立ちながら、イタリア以外の多くの異文化的背景を持つ子どもたちを受け入れ、積極的に新たな教育プログラムを進めている様子が窺えました。同時にドゥオーモ(大聖堂)に代表されるような歴史的遺産ばかりといえる町の中でダ・ヴィンチの「最後の晚餐」を目にすることができ、一同感激でした。次の訪問国

スイスでは、美しいレマン湖畔のローザンヌにある世界最高評価のホテル学校で、世界中から集まった学生に、誇りと徹底した「おもてなし」教育を行っている姿に、単なる専門学校ではない高度な高等専門教育機関の凄さを知らされました。最後に訪れたジュネーブでは、WHOや国連などの多くの国際的な機関が置かれ、世界各国の政治・経済を動かす人達の集う場所でもあることを知らされました。

いずれの国も異文化を当たり前のように受け入れている、受け入れていこうとする姿勢が教育プログラムに溢れていて、ヨーロッパの国々の歴史と伝統の懐の広さを感じさせられた研修でした。このような研修を可能とさせていただいた私学振興会、そして参加を許可くださった各学校法人の皆様にご心から感謝いたします。



## 全人教育

学校法人昌賢学園群馬医療福祉大学・同短期大学部  
群馬社会福祉専門学校・鈴蘭幼稚園

理事長・学長 鈴木利定



本学園は遠祖長尾昌賢（1388－1463）が白井の郷に聖堂を建て、京の儒者藤原清範を招き、講筵を開かせたのが基となります。江戸時代文化年間には上州植木に正誼堂を開き、私財を投じて郷里の教育に当りました。明治期には群馬県内唯一の私立中学である昌賢中学校を設立、青年教育に従事し地域とともに歩む教育機関として今に至っております。

さて、学園の建学の精神は「仁」です。「仁」とは簡単に言うならば、まごころ・思いやりやです。この「仁」は我々みんなが固有しているものです。しかし、このことに気がつかないままです。

そこで本学園では「哲学」「道徳教育」「倫理学」「論語」の講義を通じて学生に「仁」の心に気づかせ、さらに「仁」の精神を発揮させるようにしています。これは大きな特徴だと自負しております。つまり頭で理解させるのではなく、体全体で理解させることで、将来の対人援助の礎を築くのです。「仁」の心に気づいた人間こそが、他者に対してやさしくできるのです。

また学園の特色として「礼儀・挨拶」「環境美化活動」「ボランティア活動」の3点が挙げられます。

「礼儀・挨拶」はコミュニケーションの第一歩です。福祉・医療などの仕事は対人援助が中心となります。対人援助は機械を相手にすることではなく、尊厳を持った人間そのものに愛情と信頼をもって相対するものです。だからこそ本学では毎日の生活の中で礼儀作法、挨拶に力を入れ取り組んでおります。SNSの発展により、現代は相手の表情が見えないコミュニケーションが多くなってきています。だから「相手」を思いやる福祉・医療の分野では、人と直にコミュニケーションを交わし、「心」を感じることが大切なのです。

「環境美化活動」とは簡単に言えば清掃活動です。しかし本学では清掃とは言

いません。なぜならば「生活の環境を整える」ことは、医療・福祉の分野では不可欠な技術だからです。ただ綺麗にすれば良いというものではありません。「師弟同行」という言葉が示すように、本学では教職員と学生が協力して学内清掃をする光景が当たり前にあります。これは教職員が体で示すことが、教育であると考えられるからです。態度で示してこそ、学生の心に届くと考えているからです。

「ボランティア活動」は、学内では学ぶことができない貴重な経験を多く積み、自身のスキルアップに繋げることはもちろんのこと、人間として成長できる場として全学生に積極的にボランティア活動への参加を促しております。ボランティアを経験することで、学生の表情は日に日に生き生きとし、こちらが促さずとも積極的に参加するようになっていきます。

これらの活動に本園はなぜ力を入れるのか。それは社会性に繋がるからです。頭がどれだけ優れていようとも、挨拶もできない、礼儀作法もなっていない、掃除も碌にできない、他者への奉仕の気持ちも無い。このような学生を社会は果たして受け入れるでしょうか。我々が為すべきことは、教育を施すことは当然として、更に学生をして人を思いやれる、そして一人前の人間として社会に巣立たせることです。

このために本学園の教職員は、学生を叱咤したとにも泣くことをも厭いません。それはこちらが全力投球すれば、学生も返してくれるからです。



## 留学について

上武大学

学長 澁谷 正史

留学について少し考えてみたい。約40年前の我々の時代には留学の機会はそれほど多くはなかったが、最近の日本の若者の留学者数は一時的に増加したあと、かなり減少傾向とのことである。例えば、米国へは日本人約2万名に対して、中国人はその12倍、韓国からも3倍近い留学者数のニュースを最近聞いた記憶がある。

現代は、ネットなどの使用で国境が感じられない時代、また、大学教員も国際学会に参加し易い時代で、外国の研究者とも昔よりは知人になり易い時代とは思う。しかし、数年間など、ある程度長期間他の国に住んで生活することは、是非、若いうちに体験してほしいことである。私も3年間米国に留学する機会を得て、

大変貴重な経験をしたと思っている。米国内、ヨーロッパ、アジア、南米からの留学生とかなり深いコミュニケーションができ、友人も多く作ることができた。40年近く過ぎた今でも、その繋がりは途切れていない。また、外国の研究室に一人で行くと、日本という国の歴史を一人で背負うことになることも実感した。日本の歴史の多くの良い面のみならず、第二次世界大戦に絡んだ誤った歴史、なども、自ら責任をもって面と向き合わなければならない。

日本人の集団の一人として行った場合には、そのような責任は実感できないのではないかと思う。私は、自らに、また若い人たちに「自立、そして、チャレンジ!」と呼びかけている。日本に居ても実行できるが、留学はその両方の背中を押してくれる機会と思う。短期間、長期間、どちらでも留学から学ぶことは多い。日本と世界の将来を一層明るくするために、私学を含め日本の教育界全体が、もっと留学支援の取り組みをしていくことが重要ではないだろうか。

## 私学人として

関東学園大学附属高等学校

校長 吉田 明稔

私の教員生活のスタートは公立高校の臨時教員からでした。私自身が公立高校の出身であったため、「教師＝公立の教師」というイメージから当時は自然と公立の採用試験を受験していたように思います。その後、縁あって関東学園大学附属高等学校に赴任することになり私立学校での教員生活が始まりました。最初は様々な戸惑いもありましたが、次第に私立学校とは「生徒がいるから教師としていられるということ」「生徒への教育の成果が入学者数に影響していくこと」など公立・私立両方の教員を経験したからこそ実感させられることが数多くありました。その中で、私立学校の教員としてのやりがいを再認識し、「建学の精神」の下、異動の心配もなく一生腰を据えて教育に取り組める私学の魅力に取りつかれていきました。

昨今AIの発達などで、今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化され、10年後に大学を卒業する学生の約65%は今存在しない仕事に就いているといわ

れています。大きく変化していく社会の中では、これまでの「学歴や経歴」よりも「主体的な取り組みによる成果」が重視されるようになってきました。そのような社会のニーズに柔軟に素早く対応することができるのも私立学校の強みであり魅力であると感じます。

今後「私立学校であるからこそできること」、「私立学校でしかできないこと」をしっかりと捉え、私学人であることを誇りに残りの教員生活を全うしたいと思います。



人生100年  
パートナー

野村證券株式会社

MIZUHO

みずほ信託銀行



# エフォートレススタイル で自分らしく

認定こども園 山王幼稚園

副園長 関 口 智 行

本タイトルはある車のキャッチコピーに使われていた言葉です。「エフォートレス」とは努力を要しないという意味で、「気取らずに、自分らしくお洒落を楽しむ」トレンドワードとして広がりました。この「エフォートレス」という言葉は、ファッションだけでなく、「無理をしない・自分らしく・自然である」というイメージが加わり、生き方・働き方や人格（パーソナリティ）の完成を目指す教育のあり方にまで共通するキーワードであるように思われます。

環境と遊びを通して行われる幼稚園教育は本来、子どもにとってエフォートレスです。教員や子どもが我慢して、頑張らなければ成り立たない保育は不自然であり、不自然なものは継続することができません。そ

のため、私は「頑張りましょう」や「頑張っ！」という声かけをしないように心がけています。

エフォートレスな保育とは、保育者と子ども達が共に「楽しむ保育」だと思います。「楽しむ保育」とは、楽をして、手を抜くことではなく、保育者と子ども達が相互に主体的で、対話的であり、参画し、深める保育です。孔子は論語の中で学問について「楽しむ」ことは学びが一番深まる状態であることを伝えています。今日の保育は楽しい保育であったらうか？と問い続け、エフォートレスを心がけていきたいと思います。



# ～協働から学ぶ～

学校法人群馬県美容学園

理事長 松 本 一 郎

私共の学園は、美容系、冠婚葬祭・観光系、舞台音響照明系の三校を運営しております。一見何もつながりが無い学校群と思われる方が多くいらっしゃいます。

たとえば『結婚』というワードを思い浮かべてください。そこではヘアメイク、和洋装着付け、プランナー、給仕、アテンド、撮影、照明、音響、演出など様々な方々が関わり大きな舞台を作り上げていき、幸せのお手伝いをしています。

これは私共の学園が大切にしたい『協働から学ぶリレーションやコミュニケーション、チームワークの重要性』を日々学校間共同で取り組むことができる環境を整えたかったからです。幸いにも平成31年度からは前橋市石関町の同じ敷地内に三校を設置できることになったので、今まで以上に学生間、学生教員間、教員間、学校間のリレーション・コミュニケーション・チームワークが学校という垣根を超えて、そこから生まれる

『感謝、思いやり、親切心、あいさつ、一緒に喜ぶ、一緒に楽しむなど』実感・体感できれば幸いです。

私は美容師出身です。お客様と一对一の仕事ですが、実はリレーション・コミュニケーション・チームワークはとても大切だと実感しています。サロンでの少人数の小さな協働、結婚式場や芸術舞台などの大勢での大きな協働どちらも大きさに限らずそれを大切に育むことがお客様の満足度につながると私は信じています。そしてそれは仕事への大きな糧となりました。

私共の学園は、『学生が一番大切』だと思う学校です。これからも私自身、日々研鑽を積んでまいりたいと思います。



SMBC日興証券

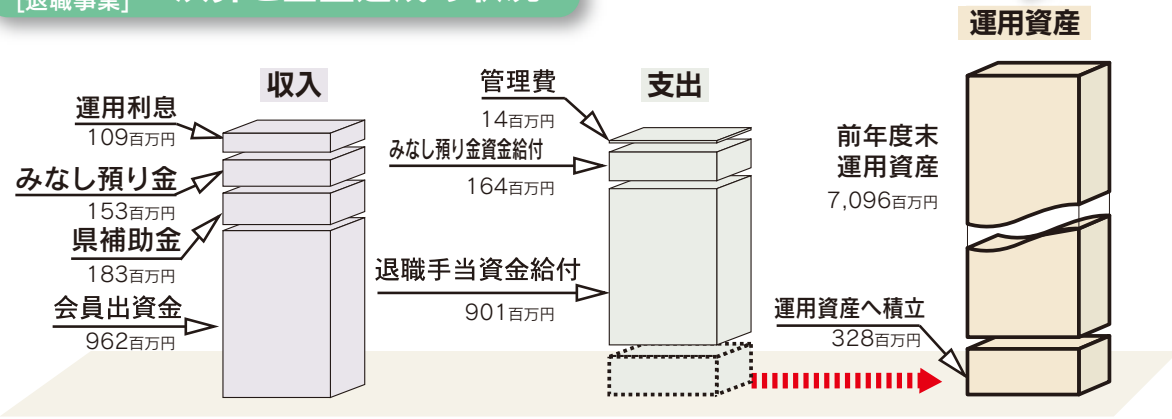
いっしょに、明日のこと。  
Share the Future



MUFG 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

平成29年度  
[退職事業]

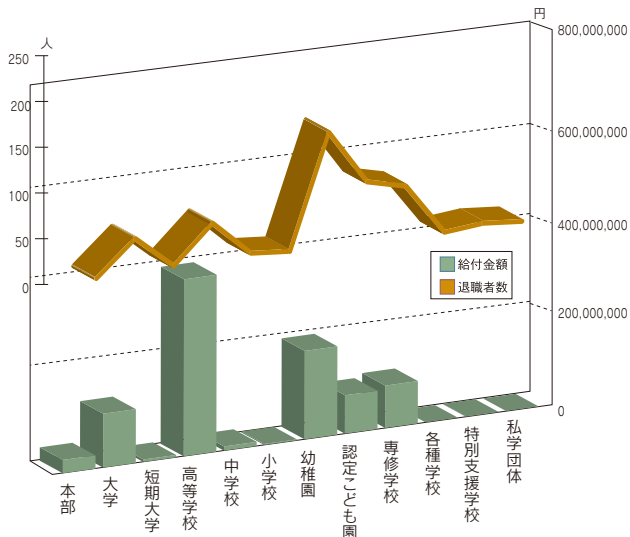
## 決算と基金造成の状況



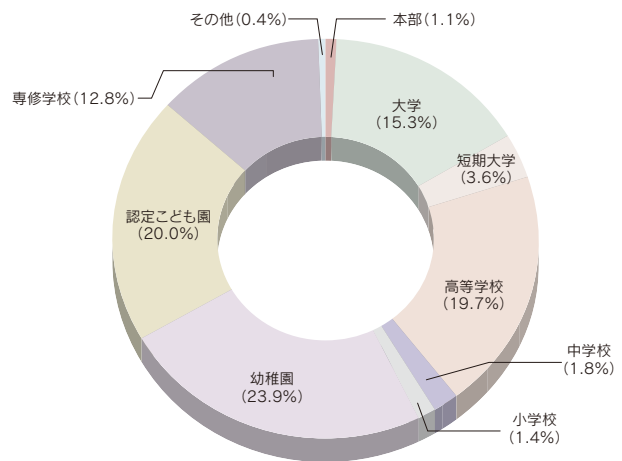
収入 1,407百万円 - 支出 1,079百万円 = 運用資産へ積立 328百万円  
 出資金・補助金・利息等 退職手当・管理費等 将来の給付に備え基金造成  
 年度末運用資産額 7,424百万円

退職手当資金給付制度は、毎月の会員（学校）から納入された出資金と毎年交付される県の補助金を原資に、教職員が退職したときに支給される退職手当の資金を、会員（学校）に給付する制度です。

### 学種別退職者数と退職金資金給付額



### 学種別登録教職員数



### 平成29年度 学種別会員学校教職員数・退職手当資金給付状況

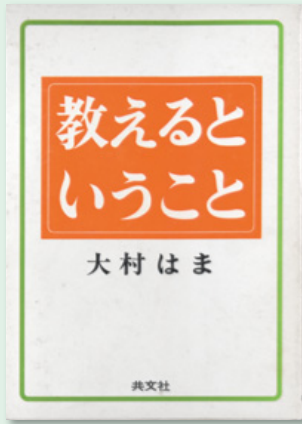
学種	学校数(本部除く)	教職員数	退職者	給付金額	退職者一人当り金額
本部	(11)	37	3	27,059,366	9,019,789
大学	7	538	42	109,046,788	2,596,352
短期大学	6	126	5	4,977,926	995,585
高等学校	14	694	47	358,026,034	7,617,575
中学校	5	62	7	8,551,187	1,221,598
小学校	2	50	3	2,019,600	673,200
幼稚園	74	840	131	178,860,484	1,365,347
認定こども園	40	704	69	77,647,736	1,125,330
専修学校	45	450	58	85,758,556	1,478,596
各種学校	3	0	0	0	0
特別支援学校	1	11	4	535,650	133,913
私学団体	4	5	0	0	0
総計	201	3,517	369	852,483,327	2,310,253

# 私の薦めるこの



今回から新コーナーを作りました。  
素敵な本ばかりです。  
冬の夜長にいかがでしょうか。

## 教えるということ／大村はま



群馬医療福祉大学看護学部  
学部長（教授） 塚本 忠男



この本は昭和45年8月に富山県の小学校新規採用教員研修会で大村はまが講演したものです。私が県立高校の教師として歩み始めた頃に出会った一冊で、私の教育の原点となった宝物です。教えるということ、を、国語教育の実践を通して愛情と厳しい視点を持って教えてくれます。

## 君たちはどう生きるか／吉野源三郎



常磐高等学校  
校長 高山 幸索



この本は戦前に発行されたにもかかわらず、現在も読まれ続けている子どもたちに向けた哲学書であり、道徳の本です。貧困・いじめなど昔も今も変わらないテーマに人はどう向き合うべきかの問題提起をしています。

## おべんとうの時間(4)／阿部直美



富士見幼稚園  
園長 柳 晋



お弁当ハンターが全国を駆け巡る普段の暮らし、いつもの「おべんとう」の旅。紙面を飾る彩色豊かなお弁当が、まるで箱庭や景色のように見えてくるから不思議です。家庭と職場、家庭と学校を繋ぎ、作る人と食べる人の人生観をオムニバスで楽しめる一冊としてお薦めします。

## 読む年表 日本の歴史／渡部昇一



学校法人 有坂中央学園  
理事長 中島 利郎



人は誰でも祖先、両親が居てこの世に生を授かりました。人間の営みも古代、中世、江戸、明治を経て昭和、平成と皇紀2700年の世界に誇れる歴史があります。日本人が自信を失いつつある今日、誇り高き素晴らしい国、日本の歴史を知る一冊です。

# 表彰受賞者

## 受賞おめでとうございます

### 文部科学大臣表彰

(私立中学校高等学校教育振興功労者)

野口 秀樹 (明照学園 理事長)

### 県功労者表彰

須藤 賢一 (高崎健康福祉大学 理事長)

### 永年勤続者顕彰

安藤 学 (共愛学園高等学校 教諭)

田口 妥子 (共愛学園高等学校 教諭)

淡嶋 亨 (共愛学園高等学校 事務長)

池田 均 (共愛学園高等学校 事務長補佐)

西岡 良幸 (前橋育英高等学校 教諭)

唐沢 仁 (前橋育英高等学校 教諭)

阿部 浩一 (前橋育英高等学校 教諭)

梅澤 芳孝 (桐生第一高等学校 副教頭)

齋藤 拓 (桐生第一高等学校 教諭)

依田 有希 (桐生第一高等学校 教諭)

小保方重夫 (桐生大学附属中学校 課長)

田村 照美 (樹徳高等学校 事務)

塚原久美子 (常磐高等学校 教諭)

深井 真紀 (常磐高等学校 教諭)

神尾 博昭 (常磐高等学校 教諭)

星野 光平 (新島学園中学校・高等学校 講師)

黒澤 達行 (新島学園中学校・高等学校 教諭)

小林 郁夫 (新島学園中学校・高等学校 事務長)

浅野 浩司 (新島学園中学校・高等学校 教諭)

半田 和博 (新島学園中学校・高等学校 講師)

ショート  
コラム

### 読書

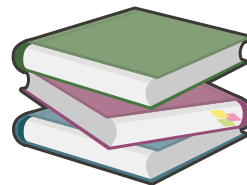
「読書三余」という故事があります。これは三国時代に魏の董<sup>とう</sup>遇<sup>ぐ</sup>が弟子に読書を勧めると、弟子は時間が無いといって嘆くばかり。そこで董遇は三つの余暇があるとして、冬は一年の余暇、夜は一日の余暇で、雨は時間の余暇である、と答え時間を見つけ読書に励むよう言ったそうです。

「読書の秋」と言いますが、もし董遇が甦<sup>よみがえ</sup>ったなら読書は何も秋に限らないと言うのでしょうか。しかし、今年の夏のような異常気温では夜の読書

も難儀するもの。適切な環境でこそ読書もはかどるものです。

活字離れが言われて久しいですが、嘆くだけでなく適切な環境を用意し、読書に誘う努力も必要です。環境さえ整えば、季節や時間を問わず読書に励むのではないのでしょうか。

(鈴木 利定)



### 編集 後記

原稿の締め切りが迫るにつれ、あれも書きたいこれも入れておこうと欲張りの自分と字数が戦うことがよくあります。実際、限られているのは時間だけではなく、近頃、情報量が溢れる中にいながら、吟味するプロセスもますます減っていることに気がきます。「平成」も残すところ僅かとなりました。カウントダウンも言わば限定期間となります。残された平成の自分史を皆さんは、どう綴って締めくくりますか？

(柳 晋)

公益財団法人 群馬県私学振興会

理事長 森本 純生

広報委員会

鈴木 利定・鈴木 良幸・高山 幸索・柳 晋

〒371-0854

前橋市大渡町1丁目10番7号

群馬県公社総合ビル6階 私学センター内

TEL 027(255)6851 (振興事業)

027(280)6207 (退職事業)

FAX 027(280)6208

URL

<http://www.shigaku-gunma.or.jp>



平成30年12月発行